

トップメッセージ



過去最高業績を記録している今こそ、新たな挑戦と変革に挑戦する好機

代表取締役社長
社長執行役員

山田正幸

社長就任からの1年を振り返る

昨年6月に社長に就任し、目の前の課題、オルガノグループの中長期戦略について経営陣と議論を重ねてきました。

当社グループは長期経営ビジョンで、「昨日までのやり方を、明日に向けて、今日変える人をつくり、一人ひとりが働きがいと活力に満ちた企業を構築する」ことを

掲げています。このビジョン実現に向けて必要なこと、そして変革しなければならないことを整理し、組織としての対応に着手できた1年だったと考えています。

昨年度のグループレポートでは、社長就任に際し、新しいことや変革への挑戦への決意を表明しました。長期経営計画ORGANO 2030で定めた重点分野に

おける事業展開や展開地域の拡大の進捗については、長期経営計画推進会議の場で定期的に議論しています。直近の推進会議では、半導体関連事業を中心とする電子産業分野の事業や薬品などの機能商品事業をどう伸ばしていくか、また北米など海外での展開地域の拡大をどう進めていくのか、データの活用などDXの推進をどう加速させていくかといった点について、集中的に議論を行いました。今回は、行動計画やそれを達成するための課題についてより具体的に踏み込んだ議論がなされ、大変有意義な内容でした。事業環境や現状分析について方向性を議論するステージから、具体的な施策とその実施計画、取り組むべき課題について議論

するステージへと確実に移行しています。

この他にも経営基盤の強化、特にコーポレートガバナンス領域の取り組みに手ごたえを感じています。コーポレートガバナンスの強化は、当社グループが長期的に取り組むべき重要課題(マテリアリティ)の一つとしても掲げています。2023年6月の定時株主総会では、女性を含む3人の独立社外取締役が新たに選任され、取締役会は独立社外取締役が過半数を占める体制へと移行しました。新体制となっても間もないのですが、豊富な経営経験や多様な知見を持つ社外取締役からの意見で取締役会が活性化され、取締役会の実効性が高まっていることを肌で感じています。

事業活動の成果と直面する課題への対応

売上高は2018年度以降拡大を続けており、2023年3月期の受注高、売上高、営業利益は、2年連続で過去最高を更新しました。国内外での電子産業分野の投資拡大が好業績に大きく寄与しました。業績の先行指標となる受注高は、中国における半導体関連の受注増加が特に寄与し前期比377億円増加の1,734億円となりました。

水処理エンジニアリング事業の成長とともに、機能商品事業も好調に推移しました。また一般産業についても、製薬や食品、電子産業の周辺分野などで大型投資が回復したほか、電力・上下水分野でも、設備の更新需要やソリューション事業などが堅調でした。当社グループが大きなシェアを持つ電力分野でも、原子力発電所の再稼働に向けたメンテナンス受注が伸びました。こうした業績面での好調を受け、ROEは14.5%と4年連続で10%を上回り、中長期的な目標値として掲げる12%を超える水準に達しています。

当社の技術、製品、サービスへの需要が伸びる中、今後も成長を続けていくために必要な最重要施策の

一つとして業務効率化の推進に取り組んでいます。その鍵を握るのはデータ活用の推進です。これはORGANO 2030や中期経営計画で掲げる取り組みであり、AIの活用も検討しながら設計業務の効率化、自動化作業を進めています。業務効率化はグローバル人材の有効活用にも深く関わっています。2021年に設立したベトナムのグローバルエンジニアリングセンター(GEC)では、現地で採用したエンジニアが設計業務における大きな戦力になっています。日本国内での高度な人材の確保が困難になっていく中で、海外での人材確保は企業の成長に欠かせないと考えています。人材の強化、育成と併せて国内外での業務効率化に今後も引き続き力を注ぎます。

また、足元の事業環境が複雑化している点は注視しています。当社グループの海外事業は中国事業と台湾事業が約7割を占めていることもあり、米中対立の構図が続くことによるビジネスリスクの高まりを認識しています。中華圏のビジネスに対する依存度を抑えていくことが、海外展開における長期的な重要課題の一つ

トップメッセージ

となります。また調達リスクの動向も懸念しています。現状は事業計画の想定範囲内ではありますが、資材の高騰と納期の長期化が続いて一部の配管材料など

では需給ひっ迫の長期化が懸念されており、今後も注意が必要です。代替材料の探索や供給元の多様化など、引き続き、サプライチェーンの強化に取り組んでいきます。

オルガノグループが目指す事業展開

当社の強みである分離精製、分析の先端技術をさらに深化させながら、水処理分野のみならず、電子材料の高純度化や有機溶媒の回収・精製など水処理以外の分野でも、省エネ、省力化、省資源にも貢献できるソリューションをお客様に提供していきます。

海外事業では中華圏の他にマレーシアでも半導体関連の事業を拡大させています。加えて今後は、欧米やインドなどでも成長の可能性を追求します。2021年には米国での事業拠点としてオルガノ(USA)を設立しました

が、既存事業の拡大に加えて、市場規模の大きい米国市場でのさらなる事業拡大計画のシナリオをどう描くかは課題の一つです。

半導体関連事業が現在の成長ドライバーですが、それ以外の産業や社会インフラ分野でも広範な顧客基盤を持っていることも当社グループの重要な強みであると認識しています。半導体関連の事業機会を追求しつつ、市況の影響を受けにくいより安定した事業基盤を構築し、お客様の多様なニーズに応えていきます。

サステナビリティ経営を実践し、企業価値向上と働きがいある職場づくりに挑戦

当社グループでは、サステナビリティ方針に基づく取り組みとORGANO 2030の事業戦略を融合させて企業価値向上に取り組んでいます。取締役会の直下に置くサステナビリティ委員会では、社長である私が委員長となり、サステナビリティ経営推進施策の企画・立案および実行を指揮しています。2022年度は重要課題(マテリアリティ)の特定と、各マテリアリティの具体的な指標(KPI)の設定を行いました。今後、本格的なサステナビリティ経営を始動させていきます。

マテリアリティとして特定しているのは、「継続的な事業成長の実現」に関わる2項目と、「事業基盤の構築」

に関わる3項目です。事業環境や事業の変化を踏まえながら、KPIを含めてアップデートをしていくことが大切だと考えています。事業基盤の構築に関わるマテリアリティ項目の一つとして「多様な人材が活躍し働きがいのある職場づくり」を掲げていますが、この取り組みは、社員自身の健康や幸福につながるとともに、業務効率の向上にもつながる取り組みとして重視しています。まだまだ現場間で温度差がありますが、それぞれの現場で社員とマネジメント層とのコミュニケーションを強化することで、職場環境は必ず変わっていくと考えています。

ステークホルダーの皆様へ

当社グループの存在意義は、水で培った先端技術を駆使して未来の産業や社会基盤の発展に貢献することです。私たちは、展開する事業そのものが社会のサステナビリティ実現に深く関わりを持っていることを誇りに事業活動を推進しています。そしてこの事業活動を支える最先端の分離精製技術、分析技術、研究開発に関して今後も積極的に経営資源を投入し、常に高度な技術力を駆使して、お客様の事業の課題、社会が抱える課題を

幅広く解決し続ける企業でありたいと考えています。

飽くなき研究開発、事業の展開、サステナビリティ経営を通じた自社の成長によって企業価値を持続的に向上させ、株主・投資家、お客様、社員、地域社会の皆様など、さまざまなステークホルダーに還元していくことが、社長としての私の最大の使命です。先端技術を駆使して産業の発展に貢献するオルガノグループに、引き続き温かいご支援をお願いいたします。



3つの強み

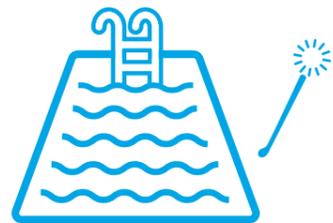
創業以来、イオン交換樹脂というイオン成分の交換ができるユニークな素材とこれを効果的に利用する装置について、多種多様な顧客のニーズに応える形で技術開発を重ねてきました。その積み重ねが独自の応用技術の開発にもつながり、オルガノの強みが培われてきました。

1. 高度な分離精製技術と分析技術

分離精製技術とは

分離精製技術は、超純水から排水、各種の溶剤や薬液などさまざまな対象に適用されますが、「不要な成分を分離して除く」と「有用成分を高純度化する」ことがその要です。

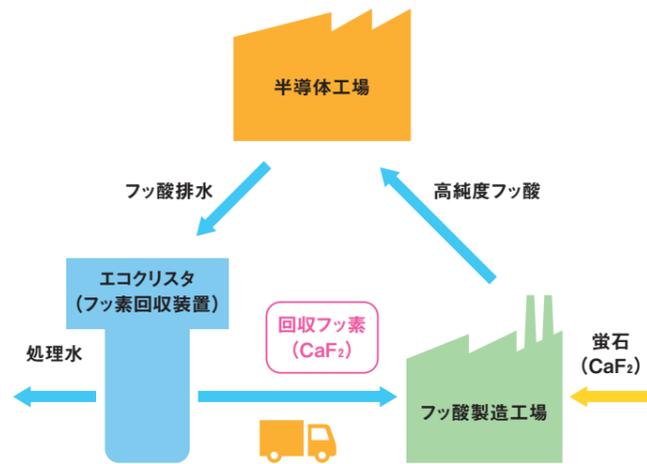
「不要な成分を分離して除く」



不純物濃度 1ppt以下

半導体製造用の超純水に含まれる不純物濃度は1ppt(1兆分の1)以下。オリンピック競泳50mプール(2,500m³)の超純水に、僅か耳かき1さじ(2.5mg)分です。

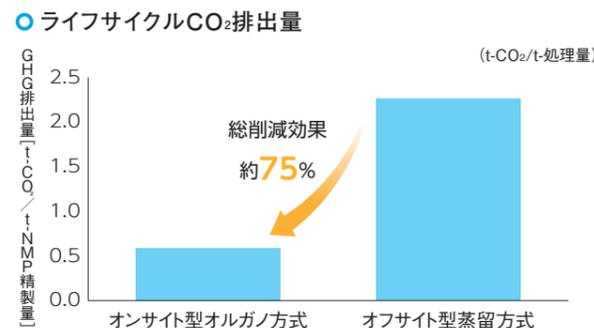
「有用成分を高純度化する」



特定成分の純度を上げる技術により、排水中からの有価物回収などに活用されています。(上記は排水中のフッ化カルシウム回収事例)

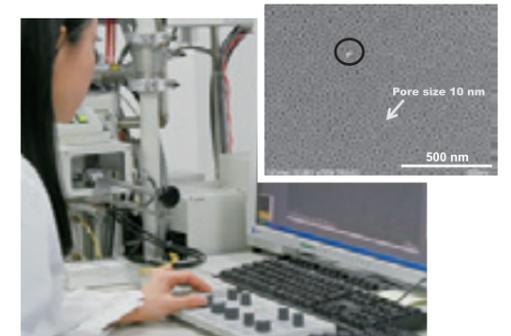
水以外の分離精製(非水分離精製)

1953年から水以外の分離精製分野に進出。砂糖の精製や脱色、焼酎からの悪酔い成分除去、また最近では、電気自動車などで用いられるリチウムイオン二次電池の正極材製造時に大量に用いられるNMP(N-メチルピロリドン)の回収技術を開発。従来はエネルギーを多用する蒸留法が主流でしたが、当社の膜分離法ではコストが従来比1/7に、またライフサイクルCO₂排出量も約75%削減でき、省資源・省エネルギーに貢献します。



分析技術開発

当社開発センターでは各種の高度な分析によって装置の性能や水質を確認するために最新鋭の分析機器を使っていますが、最先端の半導体製造に用いられる超純水中の不純物は、これら分析機器の検出限界を下回るレベルにあります。そのため、当社では分析技術の開発も継続的に行う中、独自開発した膜を利用して世界で初めて10nm(1億分の1メートル)サイズの微粒子を計測することに成功しました(右写真)。新規開発した膜、ろ過技術と連続自動観察技術を用いることで10nm微粒子の分析を実現し、半導体製品の品質・歩留まり(良品化率)の向上に貢献しています。



分離精製技術の社会への貢献

● = 製品、技術 ● = 社会課題への寄与(暮らしや産業への貢献)



3つの強み

2. 水処理の総合エンジニアリング

これまで培ってきた水処理をはじめとした分離精製に関わる幅広い技術を、顧客ニーズに寄り添い、これからも進化させていきます。

幅広い対応技術

オルガノグループでは、研究機関などで求められる1滴単位の超純水製造装置から、大規模半導体製造工場の洗浄用途で必要となる1時間で1,000 t規模(50mプール1杯分以上)を供給する超純水製造装置まで、幅広い処理容量に対応しています。同じ超純水の製造であっても、その規模により異なる装置技術が求められます。また、原水(処理前の水)は海水や河川水、井戸水、工業用水、排水など立地により異なり、顧客の用途もさまざま、それら原水や用途に応じた水処理装置やサービスを提供しています。

容量

1滴から
大規模プラントまで

水質

用水>純水>超純水の精製から排水、回収、リサイクルまで対応

適用分野

発電所、上下水道などの社会インフラから各種製造業、試験/研究所などさまざまな分野に対応

一貫体制

各フェーズで得られる顧客ニーズや新たな気づきを社内で相互に共有し、技術とサービスの向上を図っています。



ノウハウとサポート力

75年以上にわたる分離精製とこれに関連する技術を開発・装置化し、その運転やメンテナンスの中で生じるトラブルへの対応など一つひとつの経験を元に、顧客ニーズに的確に応えるノウハウを積み重ねてきたことが、当社グループの顧客サポート力の源泉となっています。

3. 産業・生活への幅広い実績

多岐にわたる納入実績から築き上げられた顧客基盤の広さは、未来の顧客ニーズに応える当社の貴重な財産の一つです。



水処理エンジニアリング事業

電子産業	主な分野: 各種半導体、FPD、電子部品等 主な装置: 超純水製造装置、排水処理装置、排水回収装置、有価物回収システム
一般産業	主な分野: 医薬・化粧品、食品・飲料、機械、化学 主な装置: 超純水製造装置、排水処理装置、排水回収装置、糖液精製装置、焼酎精製装置
電力・上下水	主な分野: 火力・原子力発電所、上下水道 主な装置: 純水製造装置、排水処理装置、復水処理装置、上水処理設備、下水処理設備

機能商品事業

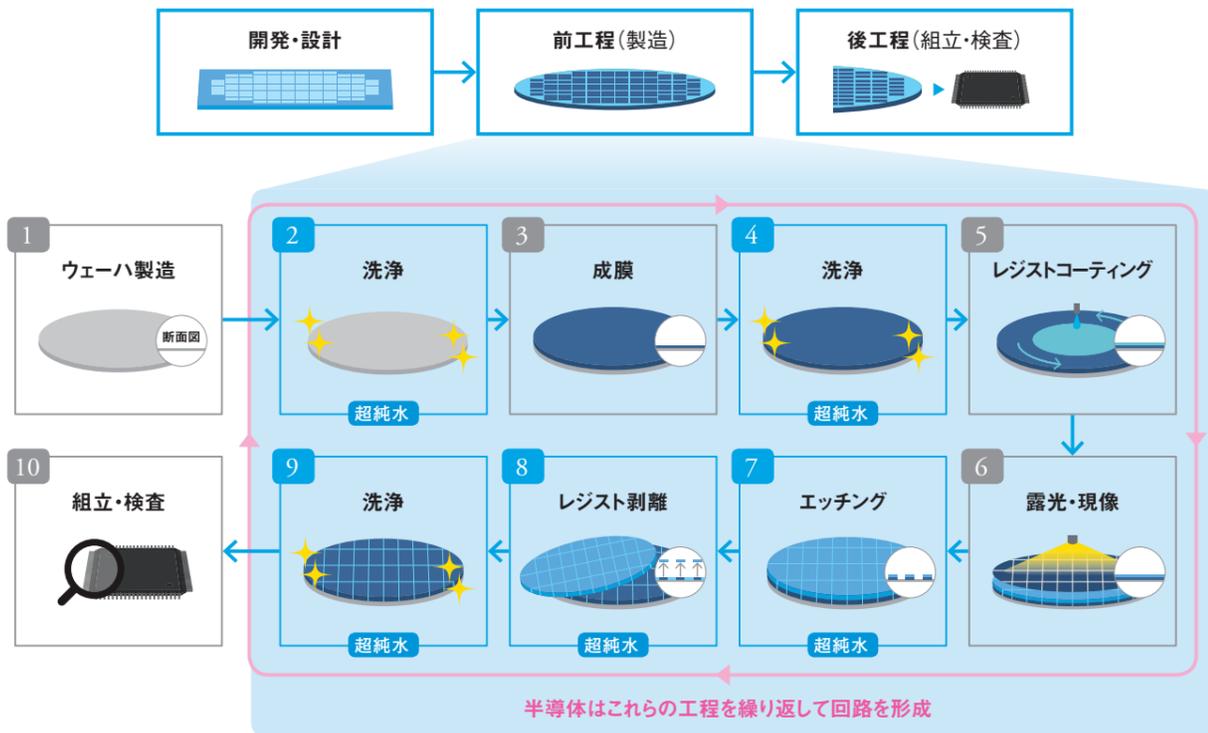
水処理薬品	主な分野: 各種製造業・ビル・商業施設 主な商品: 排水処理薬品、冷却水処理剤、ボイラ水処理剤、RO膜処理剤
標準機器・フィルタ	主な分野: 医療・研究機関、コンビニ・レストラン 主な商品: 小型純水装置・超純水装置、浄水フィルタ
食品	主な分野: 食品・飲料、介護・健康食品 主な商品: 食品添加剤・加工材、食品素材

TOPICS: 価値創造の事例

半導体製造工場向け超純水

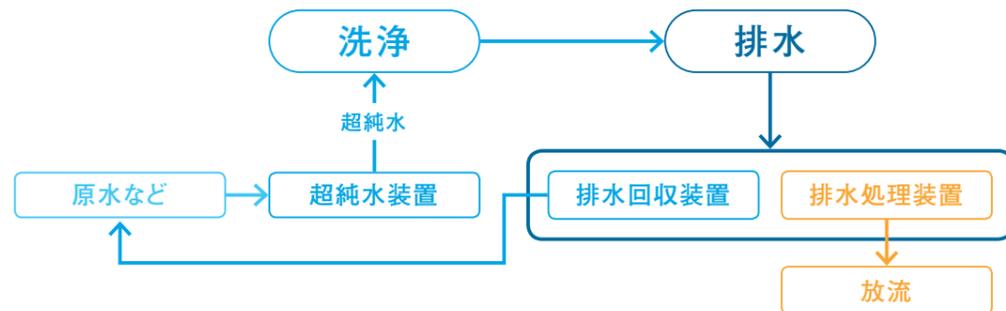
需要拡大の続く半導体の製造工程において、汚染物質や付着物を半導体の表面から取り除く洗浄は全体の3割以上を占めるとも言われ、製品品質確保のための重要な工程の一つです。その洗浄には薬液やガスと共に、超純水が大量に使用されています。当社はその超純水を製造する装置を国内外の多数の半導体製造工場へ納入しており、歩留まり向上を支えています。

半導体製造の一般的な工程



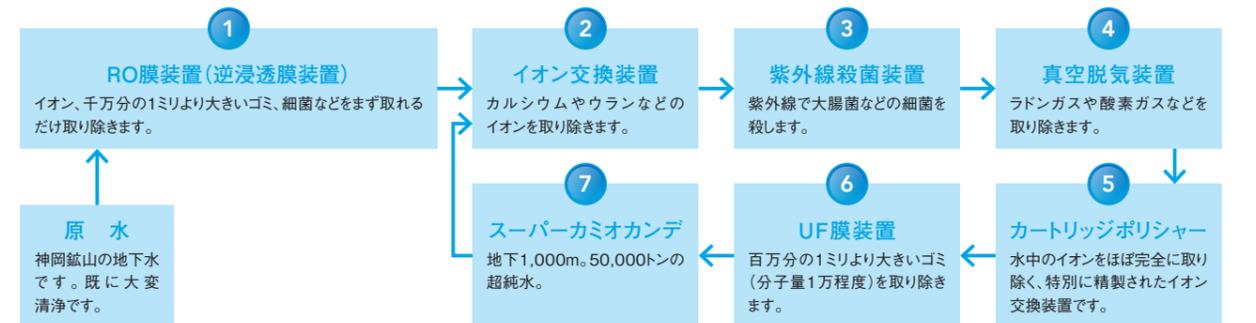
大量に使用される超純水の一部は環境負荷がかからないレベルまで処理した後に放流、一方でその多くは回収し再利用されています。この排水回収装置も当社では納入しており、水資源の効率的な利用にも貢献しています。

排水処理イメージ



スーパーカミオカンデへ超純水を供給

オルガノはニュートリノ研究を行う世界最大の水チェレンコフ宇宙素粒子観測装置“スーパーカミオカンデ”にも超純水を供給しています。ニュートリノ研究では2002年に小柴昌俊氏、2015年に梶田隆章氏がノーベル賞を受賞されています。また、2020年には東京大学とオルガノが共同開発した特殊なイオン交換樹脂によって、中性子捕獲能力に優れるガドリニウムイオン(Gd³⁺)を保持したまま他のイオンを除去することに成功。ガドリニウム導入によるニュートリノの観測感度向上にも貢献しています。



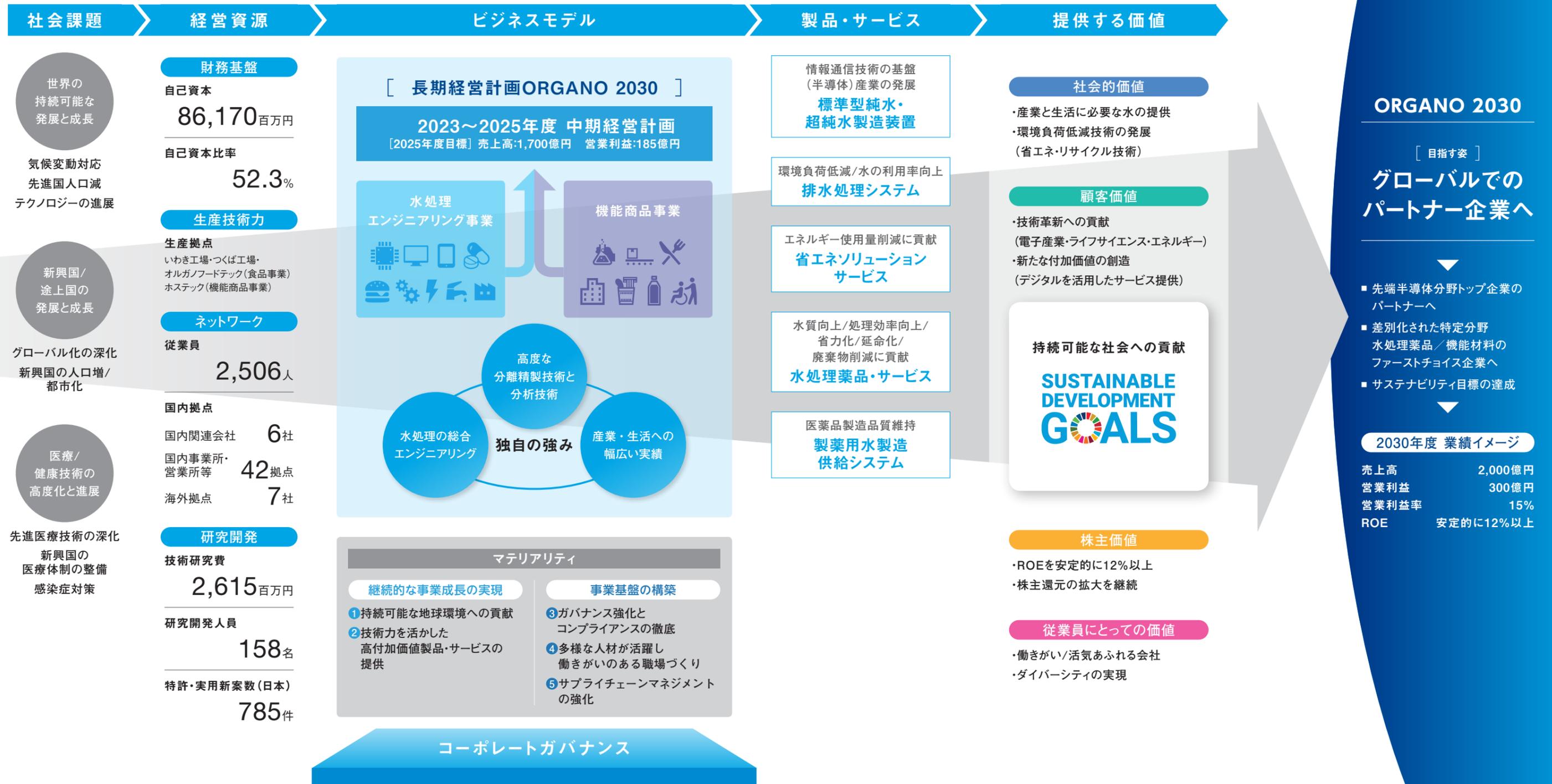
価値創造プロセス

水処理エンジニアリング事業をコアとしながら、オルガノの役割をさらに水以外にも事業領域と展開地域を拡大し、産業と社会の価値創造と

広げ、分離精製・分析・製造技術を強みとし、課題解決を推進する製品・サービスを絶えず提供します。

[経営理念]

オルガノは水で培った先端技術を駆使して未来をつくる産業と社会基盤の発展に貢献するパートナー企業としてあり続けます



オルガノグループの 製品・技術が提供する価値

「風が吹けば桶屋が儲かる」ということわざがあります。

「風が吹くと土ぼこりがたち、それが目に入って視力を失う人が増える。視力を失った人は三味線で生計を立てようとするので三味線の需要が増える。三味線には猫の皮が張られるので猫が減る。猫が減るとねずみが増え、ねずみに齧られる桶が増える。よって、桶を売る桶屋が儲かる」という理屈です。

これは極端な例ですが、私たちが暮らすこの世界では一見関係のないようなことが意外なところでつながっています。

オルガノの最先端技術で不純物を取り除いた純水が医薬品の製造に使われ、その薬で健康を取り戻す人がいます。法規が定める基準を超えて産業排水を浄化する当社の技術により、河川や海の生態系が守られ、その結果、海洋資源を保全することができます。不純物の含有量を極限まで減らした超純水は半導体の製造工程で欠かせませんが、その半導体は銀行ATMや電車の運行、インターネットなど、社会インフラの中核を支えています。また、私たちが提供する空調の電力ロスを削減する技術を使えば、

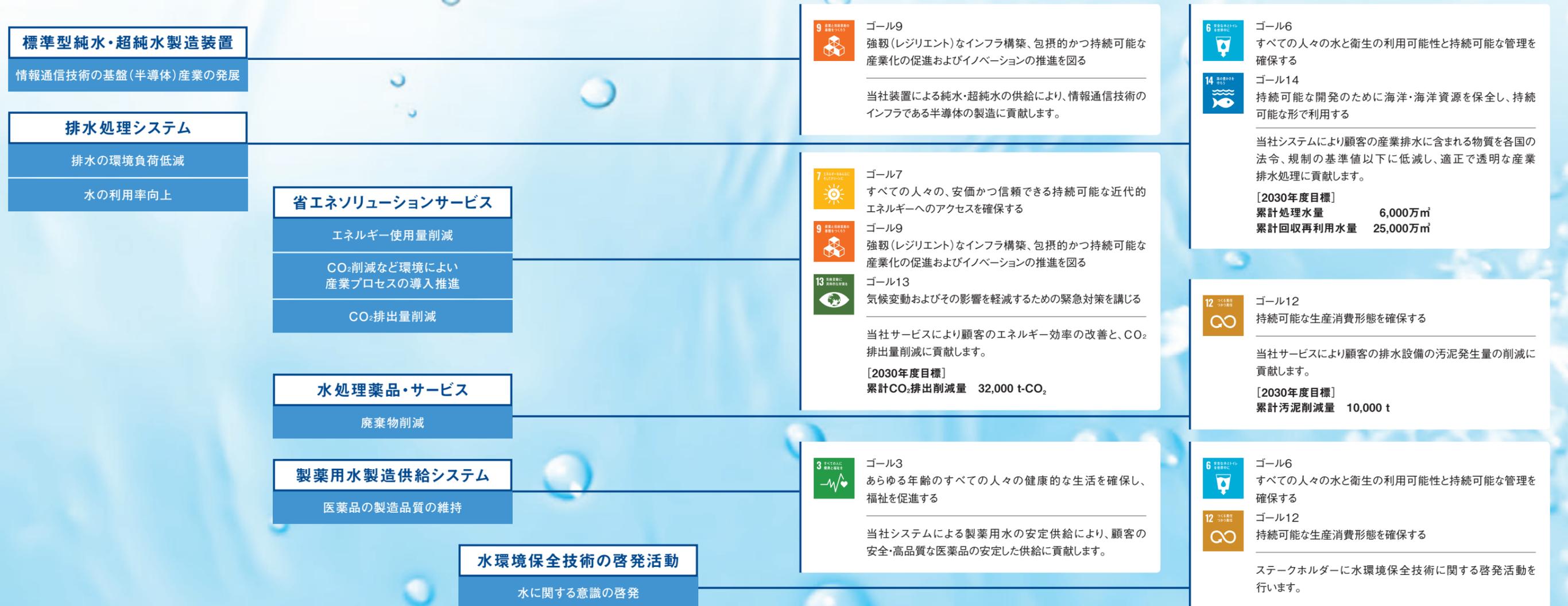
エネルギーの消費を抑え、CO₂の排出を削減することができます。

オルガノの製品・技術は「取水→利用→放出」の一連の流れの中で産業や人々の日々の暮らしを陰ながら支えています。その背景にあるのは、当社の強みである分離精製・分析・製造の高度な技術です。

地球規模でめぐる大きな水の循環の中に生活や産業で使用する水の小さな循環を構築し、水を再利用・有効利用しながら環境保全と経済発展の両立に寄与する技術。それこそが私たちが誇りをもって社会に提供する価値です。そして、その価値を追求することで、半導体や医薬品などの先端技術を支えるとともに、気候変動対策やSDGs(持続可能な開発目標)を実現してまいります。

オルガノは今までもこれからも、水で培った先端技術を駆使し、未来をつくる産業と社会基盤の発展に貢献するパートナー企業としてあり続けます。

— オルガノの事業・サービス・取り組みと解決する社会課題 —



経営資源 (知的資本、人的資本)



研究開発・エンジニアリング

分離精製技術を加速し、 未来をつくる産業の発展に貢献

取締役常務執行役員
技術開発本部長 須田 信良

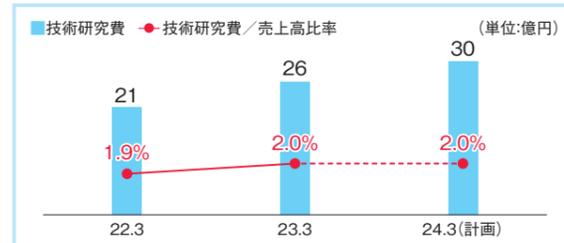
＝ 当社の技術開発方針

近年、地球温暖化による異常気象、地政学的リスクの影響により社会情勢の先行きが見通せない中、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが求められています。当社グループは、1946年の創業以来、75年以上にわたり、水処理総合エンジニアリング企業として展開してまいりましたが、今後も、付加価値の高い分離精製技術を深化・発展させ、持続可能な未来の社会に貢献すべく、先進技術の開発、提供に取り組みます。

また、当社の主力であるプラントエンジニアリング事業では、

常に事業環境の変化を的確に捉え、恒常的に変革を遂げ、産業と社会の価値創造と課題解決を推進する技術・製品・サービスを提供します。

○ 技術研究費の推移



＝ 技術者の人材育成

経営理念、長期経営ビジョンを实践する上で人材は最も重要かつ、基盤となる不可欠なものです。昨日までのやり方を、明日に向けて、今日変える人をつくるためにこれまでの業務のやり方を常に見直し、改善につなげていく取り組みを加速します。

その一つとして技術開発本部エンジニアリングセンターに技術企画部を新設し、デジタル技術の活用によるバリューチェーン全体の最適化に向けたエンジニアリング業務の抜本的な再構築、技術者が保有するノウハウ、スキルの可視化、グローバル人材の登用などを進め、変革への挑戦を継続します。

また、開発センターでは各々が保有する専門分野だけでなく、外部機関との連携の推進、経営的視点や未来志向の発想など多くの視点、高い視座により新たな価値創出を目指します。



エンジニアリングセンター

＝ 概要

当センターは各分野の分離精製技術に精通した技術集団であり、オルガノグループの得意とする多様な最適化技術や機能材を、水や溶剤、薬品など、液体の分離精製用途全般に適用させ、顧客製品の安定化や歩留まり向上に寄与しています。

また現在、東南アジアに2つのエンジニアリング拠点(タイ、ベトナム)を展開し、多様な人的資源の融合により新たな発想を取り入れ、技術の革新を続けることで、最適化技術に磨きをかけ常に業界をリードし、産業分野の発展に貢献し続けます。



常務執行役員
エンジニアリングセンター長
浅野 伸

機会

- 電子産業分野の旺盛な設備投資
- 顧客製品の高度化に伴う薬品および溶剤の高純度化、回収ニーズ
- 環境負荷の低減、資源の再利用、有価物回収ニーズ

対応

- エンジニアリングキャパシティ増強のための設計自動化ツールの導入、施工ロボットの開発
- 海外エンジニアリング拠点の強化と連携の強化
- パートナー企業との連携強化

リスク

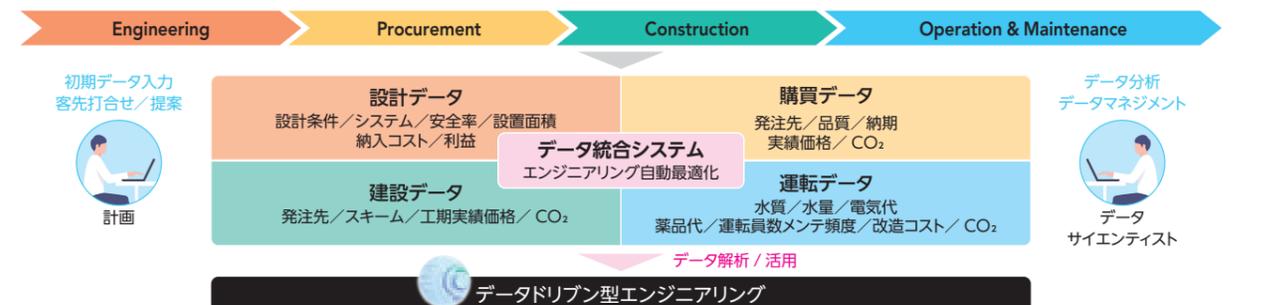
- 旺盛な設備投資需要にリソース不足により応えきれない
- サプライチェーンの混乱によるプロジェクト工期のさらなる長期化

＝ 当社エンジニアリング部門の強み

多様なアプリケーション技術とそれを支える特徴的な機能材群、また水のみならず溶剤や薬品に至る液体全般の分離精製技術の実績、ノウハウが当社エンジニアリング部門の強みです。また次世代のキーテクノロジーの一つである電気再生式脱塩装置(EDI)は開発から設計、製造まで可能な唯一の国内メーカーであり、製造ノウハウも蓄積が進みました。これらに加え、DXやロボット技術を駆使した新規製造ラインの構築を進めており、飛躍的な製造効率の向上を目指しています。

＝ エンジニアリング体制強化

データドリブン型エンジニアリング体制を構築し、また、プロジェクト規模別に効率的な納入体制を取るための組織改正を行い、生産性の向上と体制の強化を図っています。業務改革とともにマインド変革を含む人材育成を強化することにより、中期的な生産体制の強化を狙っています。並行して、新たな分離精製分野への進出やソリューション事業の強化、EDIのさらなる進化へも資源を投入します。



経営資源(知的資本、人的資本)

開発センター

概要

『先端技術の開発により未来社会の価値創造に挑戦する』をテーマに、創業以来75年以上にわたって進化させてきた分離精製技術、高度分析技術の開発に加え、先進的なデジタル技術を活用したソリューションおよび先端研究機関とのオープンイノベーションを加速することで、持続可能な未来社会に貢献する技術開発を推進します。

また、新たな価値創造に向けた基盤強化として、技術研究への継続的な投資、人材育成プログラムの充実および未来視点の開発テーマ創出に取り組んでまいります。



執行役員 開発センター長

江口 正浩

機会

- 半導体の微細化に伴う高純度化要求の拡大
- サステナビリティ活動の拡大

リスク

- 自社技術では対応困難な顧客要求の変化
- 市場変化による既存事業の縮小

対応

- 新たな専用研究施設にて超純水の高純度化を加速
- 環境負荷低減技術の開発を強化
- 先端研究機関・企業との共同研究、スタートアップなどの連携拡大、強化
- 未来視点の新規テーマ創出の推進

開発事例、テーマ

半導体業界が進める高純度化の要求に対応するべく、2022年に次世代型超純水システム専用研究施設の稼働を開始しました。本施設は、実機規模の最新水処理ユニットを備えており、より高純度な超純水を追求するとともに、水回収率向上、CO₂削減の要求に応える技術開発を進めています。

さらに、超純水製造技術を応用した薬液・溶剤分離精製の技術開発を推進し、先端半導体製造プロセスに貢献する新たな価値の創出を目指します。



今後の取り組み

国内外の先端研究機関やスタートアップとの連携を通して、先端技術と当社コア技術の組み合わせによる新たな価値創出を目指してまいります。

また、サステナブルな社会の実現に向けて、デジタル活用によるエネルギー・薬品削減などの環境負荷低減および水・資源循環に向けた技術開発を強化してまいります。

経営資源(製造資本)

生産技術力

つくば工場

世界最大級のイオン交換樹脂精製工場

当社基幹技術の一つであるイオン交換樹脂はその使用目的により求められる品質グレードが異なり、半導体製造工場や発電所向けなどでは極めて高品質のものが使用されています。これらのさまざまな品質条件に適合し、また対応し得るよう、最先端の技術を駆使した設備によりイオン交換樹脂をコンディショニングしています。また、一度使用したイオン交換樹脂の再生も行っています。



いわき工場

水処理装置ユニット組立工場

最新鋭の水処理装置製造工場で、大型水処理プラントを構成する装置ユニットを輸送可能範囲内で規格化し、組み立て製品として出荷しています。工場で組み立てることで製品品質が向上および安定化し、さらに、現地での組み立て作業が簡素化されます。その結果、現地工事の期間短縮とコスト削減を図ることが可能となります。一般組み立てラインとは別に半導体、医薬ユーザー向けに対応するため、クリーンルーム組立室を設けています。



経営資源 (社会関係資本)



海外ネットワーク

地域ネットワークを相互に連携させ、
グループネットワークの拡大を図り、
さらなる成長に貢献

常務執行役員 富沢 真
海外事業本部長

オルガノグループは経営理念に基づき、多くのステークホルダーの皆様との関わりを大切にしながら、社会基盤の発展に貢献するパートナー企業として成長することを目指しています。

創業以来、オルガノが持つ水処理技術を発展させながら、多くのお客様や取引関係者との関わりを通じて、ビジネスを展開してきました。これは皆様からの厚いご支援とオルガノグループへの信頼があってこそ成しえたものです。

皆様からの信頼と将来への期待にお応えするため、1980年代から海外におけるネットワーク拡大を積極的に図り、各地域における産業や社会とのつながりを深化させてきました。

現在、中国、台湾、ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、米国にて、それぞれの地域ネットワークを活かしながら、グループネットワークの強化を図っています。これらは、ビジネス情報、技術情報、取引先情報、資材・調達情報、リソース情報、リスク情報など、事業を支える強力な資本としてグループの成長に大きく貢献しています。

海外事業の概要

グループ海外事業は今や地域を超えたワールドワイドなつながりに発展し、日系・非日系を問わず、多くの顧客・取引先との関係を構築しています。特に台湾では、電子産業の成長初期から現地の顧客と共に事業の拡大を進めてきました。今や顧客の展開は地域を超え、グローバルネットワークを形成しており、当社もこの流れをしっかりと捉え、さらなる発展を目指しています。その中の一つとして、2021年に米国でも拠点を開設し、半導体関連産業を中心にビジネス展開を図っています。

オルガノは技術と信頼を武器に、地域とのつながりを創出できるのが強みです。今後も、より多くの顧客・取引先との関係を広げ、さらなるグローバルネットワークの拡大を図ってまいります。

機会

- 中国、台湾、マレーシア、米国の主要拠点で電子産業分野の投資が継続
- 半導体関連産業への活発なグローバル投資

リスク

- 貿易リスク、地政学的リスク
- 地域特有のリスク

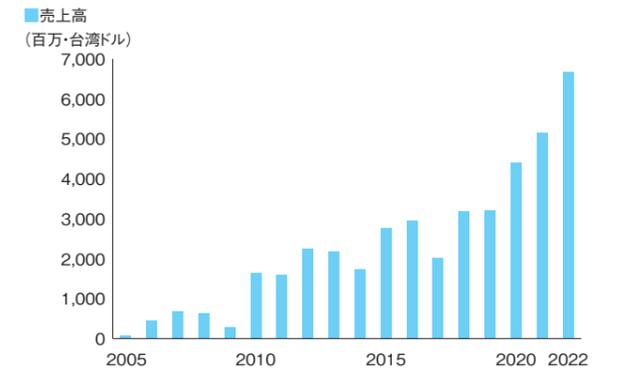
対応

- プラント、ソリューションの事業拡大
- 展開地域の拡大、同地域でのビジネス創出
- リスクの想定および対応策の完備
- モニタリングによる各リスクの逐次アップデート

台湾市場

台湾は世界の半導体生産シェア6割を超える巨大な市場です。特に最先端半導体の製造は他国を大きくリードしています。オルガノはこの最先端半導体の製造に欠かせない超純水製造装置の納入でトップシェアを誇っています。納入後の装置サービスも充実させ、長年にわたり工場の安定操業に大きく貢献しており、顧客からも高い信頼を得ています。このような努力の積み重ねにより、顧客・サプライヤーのみならず、グローバルに活躍する多くの関係者とのネットワークが醸成され、さまざまなビジネスチャンスが生成されています。今後も、顧客要望に応える技術・品質・サービスを向上させ、さらなる飛躍を目指します。

現地法人売上高の推移



台湾で培ったネットワークからの事業展開



米国市場

世界最大級の半導体ファウンドリー会社の米国進出に伴い、オルガノは2021年9月に米国で現地法人を設立しました。CHIPS法^{*}の成立から分かるように、米国は半導体エコシステムの再構築、雇用の創出を期待しています。オルガノは先端半導体で培った高度な水処理技術、ならびに顧客が抱える問題を解決するソリューション技術および経験で、米国の半導体産業ならびに地域の経済発展に貢献していきます。

また、電子産業は関連する事業の裾野が広く、オルガノの基幹技術であるイオン交換樹脂を利用した分離精製技術は、半導体製造工程で使用する薬品の高純度化にも適用されています。米国市場においてもそのポテンシャルは高く、現在、市場調査を進めるとともに既に一部では販売を開始しています。この米国市場への展開は、より複雑化していくグローバルビジネスにおいて、地域ポートフォリオの強化を図りながらリスクを最小化し、次の展開地域への足掛かりにする役割も果たします。

^{*}CHIPS法 (Creating Helpful Incentive to Produce Semiconductors and Science Act: 米国内での半導体の開発および量産やAI(人工知能)、量子コンピューター、通信技術などへの投資を支援する法案)

米国の2032年までの半導体製造会社の投資計画



出典: 米半導体工業会 (SIA) "Semiconductor manufacturing investments in the next 10 years" より当社作成